

## 科 目 名

# 日本の文学Ⅰ

## Japanese Literature Ⅰ

1年 前期 2単位 選択

原 田 榮 作

### 概 要

明治以降洪水のように流入してきた西洋の思想や文化の強い影響のもと、小説は言うまでもなく近代詩や近代短歌、近代俳句など、我が国の文学は急速に進展をとげた。江戸時代の儒学を中心とする武士階級の教養全般をさす近世的概念から、言語芸術の総称としての近代的概念に移行したのである。その後、大正ロマンの時代を経て昭和戦後の現代文学に至るまで多くの小説家が誕生し、文学作品が生まれた。加えて、学校教育と活版印刷、およびマスコミの発達が読者の飛躍的な拡大に拍車を駆けることになった。これらを概観することにより日本人の思想の変遷をたどりながら近代日本文学の特徴を理解する。

また、副次的に、日本語の基礎学力を養成するために、読後の感想文・小論文の書き方や語彙力の向上を図る。

### 目 標

- ① 近代日本文学の中の代表的な小説作家の代表的な作品を読み、その特徴を理解する。
- ② 感想文、小論文などの文章の書き方の基礎力を養成する。
- ③ 漢字の書き取り、かなづけ、四字熟語、ことわざなど、日本語の基礎力を養成する。

### 授業計画

- 第1回 第2回 前期講義内容を説明する。近代文明思潮の変革について理解させる  
福沢諭吉の「学問のすすめ」の鑑賞をする。
- 第3回 第4回 第5回 夏目漱石の「坊っちゃん」を鑑賞する。
- 第6回 第7回 菊池寛の「父帰る」を鑑賞する。
- 第8回 第9回 森鷗外の「舞姫」を鑑賞する。
- 第10回 第11回 第12回 川端康成の「雪国」を鑑賞する。
- 第13回 第14回 武者小路実篤の「友情」を鑑賞する。小論文の書き方について。  
毎回、「日本語の力をつけましょう」の確認テストを実施する
- 第15回 定期試験。

### 授業方法

講義：自作の教科書を使う。プロジェクターを使って各種関係資料を提示する。

適宜に10分間の感想文を書かせて提出させる。

毎時間、自作教材の「日本語の力をつけましょう」の範囲を限定して確認テストを実施する。

### 評価方法

定期試験（50点）、毎回の確認テストと感想文（50点）、合計100点。60点に満たないものは再考査をする。

### 学習到達度の評価

- ① 授業中に教員より質問して理解度を確認する。
- ② 可能な限り、学生の方からも積極的に質問するように促す。
- ③ 学生が書いた読書感想文や小論文の優秀なものを公表して参考にさせる。

### 教 材

自作の教科書、プリント教材を使用する。

### 履修上の注意

上記作品を図書館の本を利用するか、各自で文庫本を購入するかして必ず読む。

## 科 目 名

# 日本の文学 I

## Japanese Literature I

1年 前期 2単位 選択

坂 口 頼 孝

### 概 要

歌人として、また多くの古典を書きし今日に伝えた功績で知られる藤原定家。その定家の書いた短い歌論書（短歌の作り方を述べたもの）がある。そこにお手本として103首の短歌が載っている。その中から春・夏・秋・冬を歌い、内容的に魅力があり、語法的にも重要と思われるものを順次取り上げる。

テキストは影印本（筆書き）で変体仮名（現在のかたと違ったもの）も混じっている。その変体仮名が読めるようになることが大きな目標である。必要に応じ仮名遣い・発音の移り変わり・文法を講義する。生の古典に触れ、それを読み解く喜びを感じてもらいたい。

### 目 標

変体仮名が読めるようになること。併せて日本語の音の変遷と仮名遣いの問題・和歌の表現技巧を理解し、品詞分解や口語訳の基礎を身に付けること。

### 授業計画

#### 第1回：導入

授業の目的・やり方を確認した後、日本語の特徴・古典の読み方について講義する。

#### 第2回：1 首目(1)

平仮名・片仮名の成り立ち・字源について触れた後、1 首目（7 ページ）の字源を確認する。

#### 第3回：1 首目(2)

1 首目の歌のかな表記・漢字かな混じり表記を示し、品詞分解・語意・修辞を説明した後口語訳を完成させる。

#### 第4回：2 首目

2 首目（7 ページ）の字源を確認し、かな表記・漢字かな混じり表記をさせ、品詞分解・語意・修辞を説明した後口語訳を完成させる。

#### 第5回～第11回

3 首目（8 ページ）・4 首目（8 ページ）・5 首目（11 ページ）・6 首目（13 ページ）・7 首目（15 ページ）・8 首目（16 ページ）・9 首目（18 ページ）の字源を確認し、かな表記・漢字かな混じり表記をさせ、品詞分解・語意・修辞を説明した後口語訳を完成させる。品詞分解・語意・修辞の説明は次第に少なくして行き、学生たちが自ら取り組む（できる）ようにする。

#### 第12回：練習(1)

7 ページから11 ページの未習部分の変体仮名を字源に直させる（漢字の部分を書いた用紙を配る）。

出来た分を回収し、時間内に出来なかった者は宿題とする。

#### 第13回：練習(2)

前回の宿題（時間内に出来なかった者）を回収し、チェックする。その間過去の試験問題を配り、解かせる。チェックしたものと前回回収分を名簿順にし、正解を教室後方に6 枚ほど置き、答え合わせをさせる。各自答案訂正の上提出するよう伝える。最後に過去の試験問題の解説を行う。

#### 第14回：練習(3)

定期試験の模擬試験（練習問題）を配る。本番と同じ形式で行う。机間巡視し、出来の良くない学生に対し、奮起を促す。最後に解説をする。

#### 第15回：定期試験

### 授業方法

1. その日取り上げる一首を指示し、変体仮名を板書する。字の切れ目がどこかを黄色のチョークで示す。
2. 「字典かな」を使い、変体仮名の字源を書かせる。難しいものは読みを教える（回数が重なれば、過去出てきた箇所を教える）。
3. すべて出来た者には一首を全部平仮名で書かせ、歴史的仮名遣いの誤りの有無を古語辞典で調べさせる。
4. 古語辞典を参考に一首を歴史的仮名遣いで書かせる。
5. 古語辞典を参考に品詞分解をさせる。難しい所は説明する。
6. 歌の修辞について説明する。
7. 古語辞典を参考に口語訳をさせる。

### 評価方法

定期試験（100点満点・筆記）。60点に満たなければ再試験（1 回のみ）を実施する。定期試験・再試験は古語辞典（電子辞書）と文法書のみ持込可。時間は60分。

### 教 材

教科書：百人一首（堯孝筆）笠間書院（1,000円）…必要  
字典かな 笠間書院（390円）…必要

### 履修上の注意

古語辞典（電子辞書の場合、活用表が付いていないものは別に文法書が必要）とノートを必ず持って来ること。ノートは過去の分も持って来ること。